

ご挨拶



お茶の水女子大学学長 郷 通子

お茶の水女子大学は、文部科学省が平成19年度より新しく開始した「大学院教育改革支援プログラム」事業において、「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」（人社系）を申請し採択されました。これは、平成17年度に文部科学省「魅力ある大学院教育イニシアティブ」に、文系と理系の二つの大学院教育プログラムが採択され、平成18年度には、文系プログラムが採択されたのに続くものです。いずれも文系と理系を併せ持つ女子大大学院研究科だからこそできる教育プログラムであり、創立後130年を超える女性指導者育成の伝統と、新たな大学院教育プログラムを推進してきた実績が評価されたものと思います。

お茶の水女子大学の大学院は、平成19年に全国に先駆け、全学一体型の大学組織「人間文化創成科学研究科」を発足し、附属校園から大学・大学院までを見通した、21世紀の女性の人材育成に取り組んでいます。こうした中、「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」プログラムが採択されたことは、大変喜ばしいことです。

このプログラムは、「魅力ある大学院教育イニシアティブ」による「〈対話と深化〉の次世代女性リーダーの育成」プログラムを発展させたもので、これから3年間にわたり、国際的学際的に活躍する、アカデミックな女性リーダーの育成をめざし、さまざまな大学院教育を計画、実行して参ります。ここにその1年目の成果を報告書として刊行いたします。

本学は、日本における国際日本学研究の最も重要な拠点の一つです。「〈対話と深化〉の次世代女性リーダーの育成」プログラムでも、海外提携大学等との協力による国際日本学シンポジウムや共同ゼミを始めとして、この分野での多くの教育的実績を挙げてきました。こうした実績を踏まえ、これまでの経験から見えてきた問題点の解決を積極的に図ることで、国際日本学の研究と教育を更に拡張・発展させていくことが、この教育プログラムの目的です。

本年度も、同徳女子大学校、淑明女子大学校、国立台湾大学、北京外国語大学北京日本学研究センター、カレル大学、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院、パデュー大学と連携した国際日本学コンソーシアムや、パリ・ディドロ（第7）大学やフランス国立高等研究院をはじめとした海外の学術機関との共同ゼミなど国際的な現場での教育を実施しましたことは、学生にとって、自らの研究を国際的な視野で捉え、広く海外に発信していく大きな動機づけとなりました。

また、このプログラムの一環として行われた学生海外調査研究においては、多くの大学院生が、博士論文執筆のための大きな手がかりを得て戻ってきました。このような貴重な体験は、学生たちが、日本を国際関係のなかで相対的に把握する視野を養い、今後アカデミック女性リーダーとして羽ばたいて行く上で、大きな助けになることでしょう。

人文系の学問は、社会への直接的な関わりから隔絶しているという印象がありましたが、近年においては、学問領域を横断した新しいかたちの人文科学が、現代社会が直面しているさまざまな課題に向き合って解決していき、その成果を具体的に社会に発信することが求められています。今回のプログラムに参加した大学院生たちは、グローバル化する社会において、国際的コミュニケーション能力を高めることによって、国際化と学際化という現代的な要請に対応していく力を身につけていくことでしょう。

本学は、130年にわたり蓄積した伝統を踏まえつつ、社会の現代的要請に応える大学院教育を、今後さらに推進いたします。そして、各学問分野における指導的女性研究者を育成することによって、本学に課せられた社会的使命と、学問の発展に貢献したいと思います。

お茶の水女子大学の大学院教育への意欲と今後の実績を、批判も含めて見守りつつご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2008年3月